

# TM ニュース

TM ミーティング参加生徒用情報④2018.12.25

## TM 研究発表会開催

12月8日(土)午後1時から、2年生21名と1年生4名の研究発表が講堂で開催されました(ホームページに詳細を掲載)。

冒頭、校長先生より、「TMの活動では、医師としての仕事を知ることに加え、医師として多くの患者と接するときに必要なスキルとしての、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を、高校時代にも磨けるものとして考えている。今回、発表者は”伝える”ことに努め、聴衆は”何を伝えようとしているのか”を掴むように。」との挨拶がありました。



【発表の様子】

6月に各自がテーマを設定し、ゼミ担当者の助言を受けながら調査を始めました。9月にはゼミごとに中間発表会を行いました。その後の指導を経て最終的な論文が12月にまとまりました。

今回の発表は、2年生全員と各ゼミの代表1年生が、プレゼンテーションソフトを用いて期末テスト直後の限られた時間で準備したスライドを使って、TM生、保護者、教職員、関係者の前で発表しました。

発表後、東京女子医科大学の蔣池勇太先生より、『皆さんの発表を聴いて、科学の基本ができていることがわかりました。科学の基本とは、興味をもった事を究明すること。究明手段は実験でも調査であっても良く、自分の答えが出れば良いのです。今回はそれが出来ていました。』また、『大学でも調べ学習は行っていますが、グループで協力し合っています。戸山高校では個人で行っていることが素晴らしいです。』とのご講評をいただきました。



【東京女子医科大学 蔣池 勇太先生】

最後に、発表については、『正しく伝えるために言葉にこだわることや、多くの生徒が行っていたように、研究目的を明確にしたプレゼンテーションを行うことが大切である』とのお話をいただきました。



【発表を終えての集合写真】

### <課題研究の活動を振り返って>

課題研究の活動に関しては以下の二つの目的がありました。

- ① 興味ある医科学分野からテーマを決め調べる。
- ② 調べたことを他者に分かりやすく伝える。  
全員の論文を冊子にし、さらに2年生は全員が他者に向けて発表する。

①を進めるにあたって、課題研究の調査が始まる前にも話しましたが、調査等にあたる機関や文献が信頼できる情報かどうかを見極めることが大切でした。インターネットで簡単に情報が取り入れられる時代ですが、科学的に間違った情報や古い情報も多々見られることも考慮しなければなりません。いろいろな方面から多様な意見を集めること。信頼できる文献を丁寧に検索することなど正しく行うことができたでしょ

うか。

さまざまな実験の結果については、科学的に認められている実験であるかどうかの判断が重要です。さらに、結果に関する解釈は一通りではないので、一般的にはどう解釈されているか、反論などがないかも調べることが大切でした。

実験を行うのであれば科学的に行うための方法をきちんと検討したうえで行う必要がありました。

そして、得られた結果は、事実のみを記述するもので、結果から類推できることは、分けて記さなければなりません。

② については、「調べたこと」、「研究者等が言っていること」、「自分が思ったことや考えたこと」を明確に分けて文章をまとめることができましたでしょうか。さらに、調べたことすべてを記すのではなく、自分が伝えたいことは何かということに絞って記すことです。

今回の研究発表会で、興味・関心があって探究し理解したことを他者にわかるように説明できたでしょうか？ 現1年生は、来年度は自分が行うことを考えておいてください。

最後に、プレゼンテーションソフトを用いてのスライド作成ではどのようなことが重要になるのでしょうか。見やすいスライドに共通していることはどんなことでしたか。情報量、背景の色と文字の色の関係、字の大きさなど、いろいろとあったことと思います。プレゼンテーションでは、スライドの文章をそのまま読むのではなく、スライドを用いてわかりやすく話す練習をしなければなりません。発表者自身がよく理解し自分のものにしていく内容であれば、初めて聞く人にも研究のねらいや研究結果の大切な点が伝わります。今回の論文作成、プレゼンテーションを通して、感じたこと・考えたことを次に生かしていきましょう。

## TM 講演会 「医学科受験のポイント」



12月11日(火)午後3時から3年生8名、2年生1名が参加して進学予備校の宮辺正大先生から医学部受験についての詳しいお話をいただきました。模試に基づく大学の志願者動向、各大学のセンター試験の教科配点比率、前年度合格者のセンター試験得点率や個別試験得点の目安など重要な情報を提供いただきました。特に後期にも受験可能な大学が23校あり、その志願倍率の高さ(10~20倍台)で敬遠しがちであるが、昨年の実質倍率は2倍前後の大学が半数であったことが示され、後期まで出願できるセンター得点率を目指しましょうとの話を伺いました。

## TM 生にエールを送ります

高3生は、いよいよ受験最終段階に入りました。センター試験9割を目指して黙々と取り組んでいます。1分も無駄にたくない思いでいることでしょうか。この冬、最高の集中力を発揮してください。

さて、高2生ですが、今の学習時間管理でセンター9割は大丈夫でしょうか？ TM担当がClassiを見てみると、毎日コツコツ学習を重ねている生徒は、安定した学習結果を残しています。そうでない生徒は心配な状況です。『継続は力なり』とか『ローマは1日にして成らず』とか言われます。地道な努力はいやになることがあります。そこを乗り越えないと事は成りません。自分を甘やかせば、結果はついてこない。むしろ夢はどんどん手中からこぼれ落ちて行きます。私たちが見てきた医師は、困難に対しての忍耐力が人一倍高い人たちでした。最も容易な任務は、勉強することです。結果が出ていない生徒は、生活時間を振り返り、勉強時間の確保に向けた生活に早く切り替えてください。

高1生は、新テストを受けることになります。新テストは、まだ分からないことが多いので対策は先送りと考えていて良いのでしょうか。新テストでは、今まで以上に総合的な回答が求められます。要は知の総合化です。これには知識等の深い理解なしに解が出せないということです。TM生にはこのことが容易に理解できるはず。TM担当として、知識の定着に不足がないかを1年生には心配しています。

そこで、高2生、高1生は、1月にリアルセンターを受験します。高2生(センターは高2生までの知識・技能で対応可)で、**国数英、平均で75%の得点が得られない場合は、そうとう準備が遅れていると深刻に受け止める必要があります。**高1生は、**65%以下では準備不足と**考えてください。高3生同様、冬に十分な対策をしておいてください。

ちなみにH29年度、医学部医学科に一般受験で合格したTM生が、高2生のときにリアルセンターでどの程度得点していたかを紹介します。英語170点、国語130点、数学I A, II Bは180点です。同じ人ですが、高1生のとき、国語は150点でした。国語の得点が高2で下がったと悔やんでいました。

3年生はこれからセンター試験、個別学力試験と続きますので、体調を崩さないように気を付けて、最後まで、頑張ってください。



### 【講演会等のお知らせ】

1月11日(金)午後3時 自治医科大学の講演会  
2月16日(土)午後1時 TM生対象研修会